めばえ

2026.10.19　瀬戸ひなご幼稚園園長　神戸洋美

アジアパラ競技大会が始まります



10月18日から「愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会」が始まりました。24日の閉会式まで、45か国の国や地域が参加し、18競技502種目の競技が行われ、熱戦が繰り広げられます。

アジアパラ競技大会は、アジアパラリンピック委員会が主催する、アジア地域における障害者スポーツの総合競技大会で、開催周期は4年。前身となるフェスピックが第9回まで行われ、2010年からアジアパラ競技大会に引き継がれました。2010年、広州大会が初めて開催され、日本でアジアパラ大会が開催されるのは、愛知・名古屋大会が最初となります。

実はアジアパラ競技大会の前身であるフェスピック（極東・南太平洋身体障がい者スポーツ大会）は、1975年に大分県で第1回大会が開かれたそうです。日本はこの分野の大会と縁の深い国のひとつであり、その流れをくむ大会が半世紀の時を経て日本に「里帰り」する形になる点も、2026年大会の見どころのひとつです。

開催都市となる愛知県・名古屋市にとっては、地元でトップクラスのパラアスリートの競技を間近で観戦できる貴重な機会となります。時差のない自国開催のため、テレビや配信でも観戦しやすく、競技のルールや選手の背景を含めて、多くの人にパラスポーツを知ってもらうきっかけになると期待されています。注目されている選手は、車いすテニスの小田凱人、パラバドミントンの今井大湧、パラ柔道の石井亜弧・西村淳未、パラパワーリフティングの大堂秀樹・山本恵理、座位バレーボールの横田利沙、パラアーチェリーの上山友裕らが挙げられます。それぞれの地元にも注目選手がみえると思います。

選手の皆さんにとって自国開催の利点は、食事や環境だけでなく、観客の皆さんの応援も背中を押す大きな力になると思います。会場に足を運んでの応援はもちろんですが、お仕事などで観戦ができない方は、TVやネットでの中継で応援することも大きな力になります。海外の試合でも「日本の皆さんがパワーを送って応援してくれたから勝つことが出来ました。」という選手もいます。会場にいなくても、エールを送るという見えない力も大きいと思います。ぜひ、選手の皆さんへ応援をよろしくお願いします。



もうすぐ運動会

今、どのクラスも運動会に向かって一生懸命練習しています。繰り返しの練習で、「早くなったね。」「上手になったね。」と成長を認め、ほめていくことで子どもたちのやる気を伸ばすようにしています。

さて、日本の運動会は、明治時代に西洋の体育教育を取り入れたことから始まりました。その後、全国の学校に広まっていき、特に昭和時代に秋の恒例行事として定着しました。

運動会で一番盛り上がるのは、徒競走やリレーです。ところが、この徒競走をめぐって一時期、こんな議論が起こりました。「子どもたちが一生懸命走るのに、順位をつけてはかわいそうだ。みんなで一緒にゴールしてはどうか。」この提案後、かなりの学校で、みんなで手をつないでゴールするという光景が見られました。私は「意義あり！」と唱えたくなりました。

子どもたちは一人ひとり個性があり、持っている能力も違います。勉強に優れて良い成績を取る子、運動能力が高く体育で活躍できる子、それぞれの能力を引き出し、良さを伸ばしてあげることが教育です。お互いの良さを発揮し、認め合うことで社会も成り立っていくのではないでしょうか。数年後、やはり「みんなで手をつないでゴールする。」は姿を消しました。

かけっこもリレーも全員1位になることは不可能です。でもそれを目標に頑張ることで、心も体もたくましくなっていきます。結果だけでなく、努力の過程をほめてあげることで自己肯定感も高まり、自信につながります。お家に帰ったら、「今日も頑張ったね。」と励ましてあげてくださいね。